



笹山小学校 学校だより

平成29年 4月 5日発行  
平成29年度 第1号

新年度を迎えて  
～ 明日ありと思う心の仇桜 ～

学校長 三瓶 徹

新年度を迎え、校庭に喜びにあふれた子どもたちの顔、元気な声が戻ってきました。

ご入学、ご進学おめでとうございます。

今年度も、「一人ひとりがいきいきとし、充実感がもてる学校づくり」、「安全な学校づくり」、「児童、保護者、地域にとって魅力ある学校づくり」をめざし、教職員一同心を一つに、笹山小学校の子どもたちの笑顔を大切に育てていきたいと思ひます。

さて、日本の「国花」であり、暖かな春を告げる花として多くの人に愛されている桜は、古くから文学を愛した人や武芸の達人から、爛漫と咲きあふれた姿が称えられています。桜の花の命は、咲き始めてから1週間から10日ぐらいです。しかし、せっかく満開になった桜も、花散らしの雨や嵐によって、1週間も待たずに散ってしまうことがあります。

「明日ありと思う心の仇桜 夜半(よわ)に嵐の吹かぬものは」

これは、鎌倉時代の親鸞聖人がつくった短歌です。「明日がある、明日お花見をすればいい」と思って安心していると、真夜中に突然嵐が吹いてきて、満開の桜が散ってしまうかもしれない、とうたった短歌なのです。この世の中はいつも変化して、変わりやすいものだという意味がこめられています。また、「今日できることは明日に延ばすな」という教えもふくまれていると思ひます。仕事や学習など、その日のうちにやらなければならないと十分にわかっているのですが、つい手を抜いてしまい、やらなければならないことを先へ先へと先延ばしにしていけないでしょうか。私自身も楽なことを先にしてしまい、面倒なことを後回しにしてしまいがちです。つついやるべきことを先延ばしにしがちですが、その都度この短歌を思い出して生活をしていきたいと思ひます。

3月17日には、6年生24名が立派に巣立っていきました。また、新1年生13名を迎えて新しい年度のスタートとなりました。「お互いの良いところを見つめ合って、互いに切磋琢磨し、高め合って伸びていく」そんな子どもたちに育てたいと職員一同力を合わせて支援してまいりたいと思ひます。「教育は共育、育児は育自なり」という言葉を聞いたことがあります。教育する方も、される方も共に研鑽を積み、育っていかねばなりません。子どもを育てるということは、自分自身も成長しなければならないという意味です。地域や保護者の皆様方とコミュニケーションをとりながら、よりよい教育を目指していきたいと思ひますので、これからも、温かいご理解と、一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。